

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 619 2019年 5月号 1部60円 友の会会員は会費に含まれています 発行 東京勤労者医療会代々木病院 院長 河邊 博正 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7 TEL 03(3404)7661 http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

地域に求められる透析をめざして

50年目を迎える透析療法

代々木病院が血液透析療法を開始して、今年12月で50年目を迎えます。2014年には透析機械25台全てを最新の「オンラインHDF」へ切り替え、身体への負担が少ないやさしい透析を実施しています。「地域との医療連携」も緊密にとり、体力や筋力を保つ「予防としてのリハビリ」もすすめて、昨年から透析利用者の送迎も開始しています。50年目という節目をむかえ、地域に求められる透析をめざす代々木病院透析室について石黒千鶴医師に聞きました。



代々木病院 透析室 医師 石黒千鶴

透析療法のなりたち

代々木病院が透析療法を開始したのは1970年12月で、透析療法が保険適用となった1968年から2年後のことでした。しかし、当時は従事する医師、技術者が少なく機械台数が少なく1970年時点で全国わずか108台(2017年13万7千台)、患者数も215人(2017年32万1千人)でした。機械台数が少ないことに加えて、透析は保険適用となっていました。たが、社会保険家族(被保険者で本人でない)や国保の場合(当時は自己負担割合5割)毎月15万、25万円の自己負担額を払い続けなければならず、「金の切れ目がいのちの切れ目」と言われていました。こうした状況に対して、1971年に代々木病院に通う腎臓病患者と透析患者の会「腎友会」を結成し、医療費を心配せず透析を継続できるように更生医療の適用と機械台数の増設を求める運動を腎友会を中心に展開し、全国的な運動となり、1972年に更生医療と増設が認められることになりました。こうして、透析患者さんをめぐる医療と社会状況が大幅に改善され、透析技術の大幅な進歩もあり、多くの患者さんが治療しながら社会復帰していくことが可能となりました。



代々木病院透析室

その後、規模を拡大し、技術革新や機械の耐用年数、身体への負担が少ないやさしい透析の実施



身体への負担が少ない「オンラインHDF」

数の経過にともなう機械の更新をその都度行ってきました。2014年に透析機械を更新する際に、どのような機械を選択するか検討しました。透析学会では、若いころから何十年も透析を続けている方の「高齢化」、高齢者の方が透析に入る「高齢者透析導入」、が話題となっていました。日本全国で30万人を超える方が透析を行っており、いかにうまく透析と付き合っていくのかが大事になってきます。

代々木病院周辺の地域に住んでいる方の高齢化が進んでいること、高齢の方、長期間透析を受けている方、合併症から透析アミロイドーシスや動脈硬化が進んでいる方が、継続的に透析治療を受けなければならないことから、一番身体への負担が少ない「オンラインHDF」の導入を決めました。「オンラインHDF」は、血圧の上下動が少なく、不要な物質の除去に優れている最新の機械で、透析の合併症の発症を抑えたりするのに優れていると言われています。



送迎サービスを受ける藤田さん

また代々木病院は入院で透析しながらリハビリテーションを受けることもできます。治療とリハビリをしっかりと行って自宅での生活に戻られる方が多いです。外来では自分で歩いて通院することが多いです。また代々木病院からは5km圏内の方について、送迎サービスも開始しました。代々木病院の透析療法が50年目を迎えるにあたり、今後も地域に求められる透析をめざしていきます。送迎についてのお問合せ 代々木病院 03-3404-7661(代表) 透析室看護師長 濱田まで

千駄の萱

今日から令和に元号が変わった。多くのマスコミは元号を物指しにした時代の流れや変化を報道している。それも一つの見方としてあるだろう。でも元号が変わることと私たちの暮らしが変わるのか、私たちの運動方向も変わるのだろうか。折しも全日本医師会から冊子が発売された。題して「学習ブックレット・民医連の綱領と歴史」。新綱領が制定されて九年、今こそ歴史に学ぶ時と思う。冊子は綱領、歴史、未来の順に見開き二ページを基本に構成されているので、少しずつ読み進めることができる。▼綱領の章は単語を含め難しく感じるかも知れない。そこでお勧めの読み方はこうだ。まず歴史から読んでみてほしい。それも自身の年齢に合った所からでもいいから、その時代に民医連と自分が何を感し、考え、行動したか、しようとしたかを重ね合わせると見えてくるものがあるはずだ。まだ産れる前のことは想像力を大いに発揮しよう。▼大切なのは歴史に学ぶこと、歴史をではなく「に」学ぶ姿勢である。綱領は私たちが迷った時に頼りになるもの。明日をつくるのは私たちが。 (み)